

令和6年能登半島地震への 愛知県看護協会の対応 災害支援ナース・JMAT等

1月1日（月）16時10分 能登半島にてM7.6の地震発生



令和6年3月18日
理事会

愛知県看護協会からの第1陣派遣

- 1月 5日(金)** 10時 日本看護協会より愛知県に派遣依頼
愛知県看護協会内に対策本部の設置
- 11時 災害支援ナース登録43施設（318名）に依頼
→ 14施設より推薦
- 1月 6日(土)** 1陣決定 掖済会病院2名・蒲郡市民病院2名
- 1月 9日(火)** 13時 派遣者ミーティング後、自家用車で出発
25時 金沢市内着 ホテル泊
- 1月10日(水)** 10時 金沢市内より日看バスにて移動
～ 13時 七尾市内の派遣先到着 宿泊：避難所
- 1月12日(金)** 20時 活動終了 後日看バスにて移動
22時 金沢市内着 ホテル泊
- 1月13日(土)** 15時 帰還
- 1月16日(火)** デブリーフィング 愛知県看護協会

1月10日～1月30日 第1陣から第8陣

派遣数 各陣4名（2名×2チーム） 32名

派遣先 七尾市 矢田郷地区コミュニティーセンター 1月10日～12日
七尾市 田鶴浜コミュニティーセンター 1月12日～15日
七尾市 中島小学校 1月10日～2月2日 終了
七尾市 矢田ふれあいセンター 1月15日～2月2日 終了

環境 電気あり 暖房は不十分 上下水道使用不可 トイレ仮設

看護ケア 環境調整・心理身体アセスメント・**他チームとの調整**

閉鎖に向けての全体調整

勤務体制 **24時間勤務 避難所内で宿泊**

派遣者用に部屋はあるも施錠不可

移動 金沢市内前泊・後泊

移動は指定のバス

到着時間より数時間遅れ 移動時間 3～5時間



派遣先

七尾市中島小学校

七尾市 矢田
ふれあいセンター

七尾市 田鶴浜地区コ
ミュニティセンター

七尾市 矢田郷地区コ
ミュニティセンター

いしかわ総合
スポーツセンター

金沢

2月2日～2月29日

第9陣～第17陣

派遣数 第9陣～第12陣は4名 16名
第13陣～第17陣は2名 10名 合計**26名**



1.5次避難所 いしかわ総合スポーツセンター

派遣先 **金沢市 いしかわスポーツセンター**

1.5次避難所 当初避難者160名

テント生活 シャワー8室

環境 電気あり 暖房OK 上下水道制限あるもOK

看護ケア 環境調整・身体的精神的アセスメント・ケア

清潔ケア・他チームとの調整

避難所の閉鎖に関する全体調整

勤務体制 交代制勤務 夜勤（16時～9時）

その他 宿泊：前泊・活動中とも金沢市内ホテル

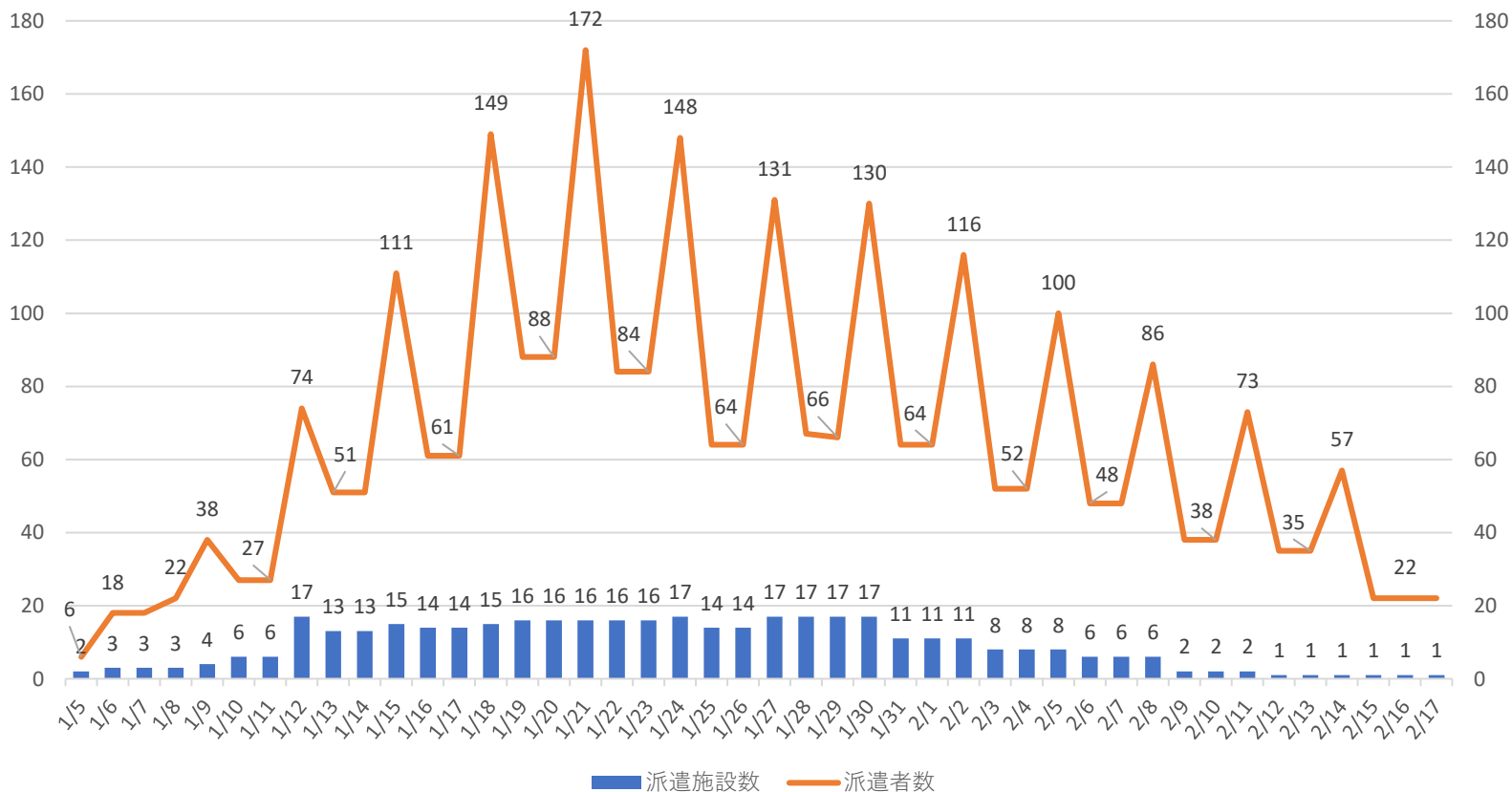
移動：日看指定のバス ホテル・派遣先・金沢駅間

日本看護協会からの派遣状況

派遣先 : 23施設 (4病院・19避難所)

延派遣数 : 3040名 (県外2964名)

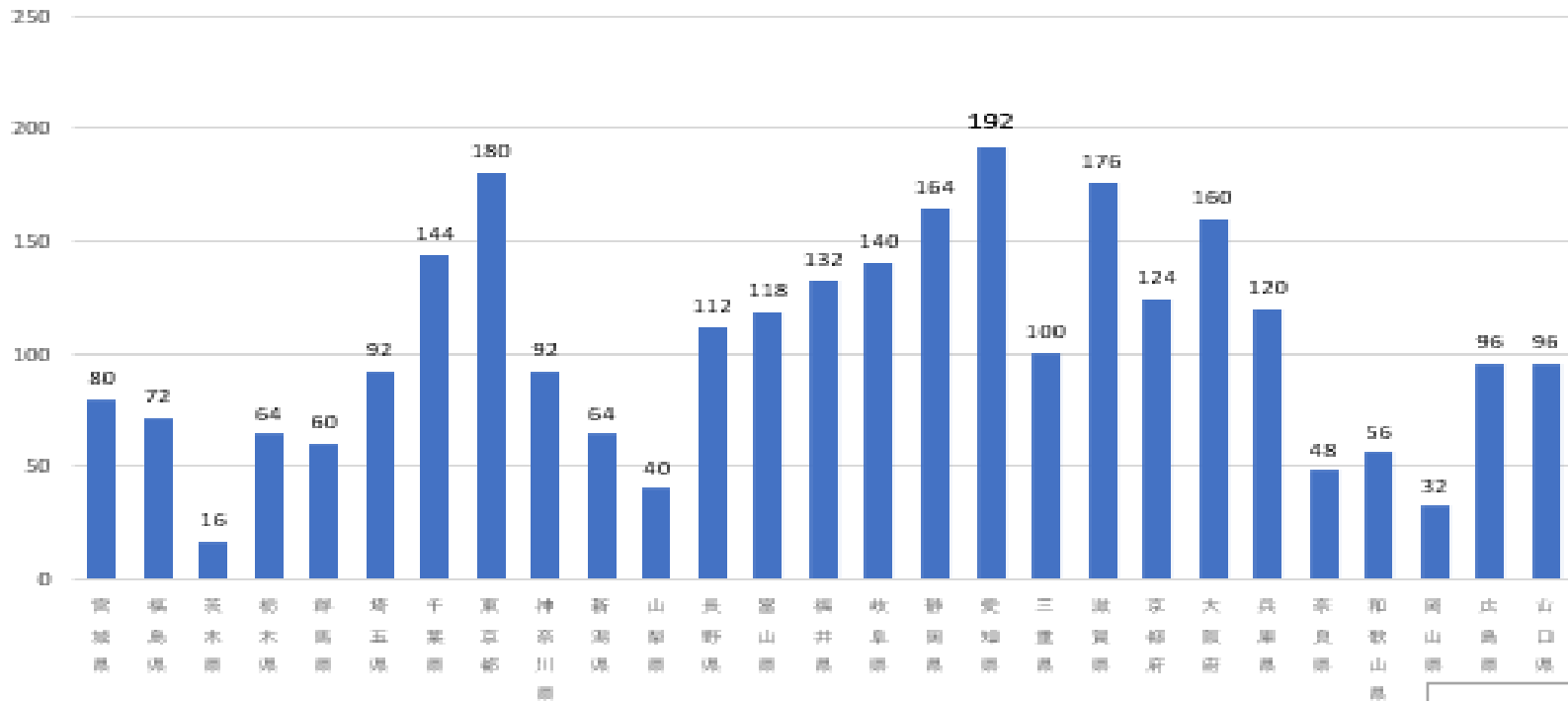
最大いしかわ総合スポーツセンター 1450人



各県協会からの派遣状況

派遣協会：27協会（東北・関東・中部・関西・中国）

延派遣数：愛知県看護協会 228名



2月26日集計

愛知県看護協会からの派遣状況

期 間：令和6年 1月10日～2月29日
派遣施設：26施設（12施設は2回以上派遣）
派遣数：58人（2名は2回派遣）
延派遣数：226人

1	愛知医科大学病院	14	大同病院
2	愛知県がんセンター	15	中京病院
3	安城更生病院	16	常滑市民病院
4	一宮市立市民病院	17	豊川市民病院
5	稲沢市民病院	18	トヨタ記念病院
6	岡崎市民病院	19	豊橋市民病院
7	春日井市民病院	20	豊橋ハートセンター
8	蒲郡市民病院	21	名古屋掖済会病院
9	刈谷豊田総合病院	22	名古屋市立大学病院
10	江南厚生病院	23	成田記念病院
11	公立陶生病院	24	半田市立半田病院
12	公立西知多総合病院	25	名城病院
13	新城市民病院	26	八千代病院

広 報

看護協会について

県民の皆さまへ

看護職の方へ

教育・研修

訪問看護総合支援センター

看護学生ナビ



協会だより2月号
刈谷豊田総合病院
大井里美さん

【災害情報】令和6年 能登半島地震

この度の「令和6年 能登半島地震」で被害を受けられた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。
一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

▶ 災害に関する報告書を掲載しています。

CBCラジオ 2月放送分 災害支援ナース特集

災害支援ナース

豊田総合病院 看護師長 大井里美さん

1月12～15日に七尾市の中島小学校、2月2～5日に金沢市のいしかわ総合スポーツセンター(1.5次避難所)で活動した大井里美さん。

中島小学校は、約200人の避難者があり、そこに2人の災害支援ナースが派遣された。発災後10日以上を経過してもなお、断水が続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止が大きな課題となっていた。限られた人数ではあるが、さまざまな医療チームやボランティアと役割を分担し、看護師として優先的に行うことに尽力できるよう留意した。例えば、洗面台の環境整備などは、ボランティアと連携して行った。大井さんは「医療の知識がなくとも、目的を明確に伝えればできることはたくさんある。今回、ボランティアの皆さまには本当に助けられた」と話す。

避難所では保健室に常駐し、医療が必要な避難者の対応を行った。また、悩みや不安をため込まずに、気軽に話してほしいという思いから、メンタルケアを行うための「看護師だより」を作成して掲示板で周知した。書いて貼るだけではなく、自ら避難者に声をかけるなど、合わせて働きかけを行うことも大事なことだ。それによって、避難者のニーズを把握することもできたという。

1.5次避難所では、33人の災害支援ナースが派遣され、大井さんは統括リーダーとして活動した。この2カ所の支援活動で共通して重要だったことは「避難所はあくまでも生活の場でもあることを忘れずに支援活動をするのだ」と話す。病院と同じように個々の状態を全て把握して対応しようとする、避難者の生活に介入しすぎてしまう。統括リーダーとして活動する中では、避難者の健康レベルの維持だけでなく、個々の生活を尊重する視点を持って対応することをチーム内に意識付けた。また大井さんは「4日間という時間でできる支援は限られている。だからこそ、避難者の先々の暮らしを見据えながら、災害支援ナース一人ひとりが、活動をしっかりとつないでいくことが大切である」と語る。現在も石川県内の各避難所では災害支援ナースによる支援のバトンが繋がれている。



災害支援ナースの派遣を通じて

＜新たな情報共有＞

- ・ 日本看護協会：チャットワークでの情報共有
- ・ 愛知県看護協会：LINEでの情報共有

＜派遣にあたっての日頃からの準備の必要性＞

- ・ 速やかな支援に入るためのマニュアルの準備
- ・ 被災県を想定して受援のためのマニュアルの整備

＜4月より法制化した災害支援ナースへの移行＞

- ・ 3月 愛知県行政と研修修了者所属施設と協定を締結中
研修修了者87名
- ・ 4月 運用の明確化・養成研修の開催

JMATへの看護師派遣

日本医師会災害医療チーム

- ・ Japan Medical Association Team
- ・ 被災者の生命及び健康を守り、被災地の公衆衛生を開始し、地域医療の再生を支援する
- ・ 愛知県医師会医師1名・看護師1名・薬剤師1名・事務2名
- ・ 体制：自己完結型・3泊4日・宿泊と食事・車は医師会準備
- ・ 経過：**1月 5日**：看護協会へ派遣要請
- 1月 6日**：プラチナナース登録者へ公募 21名応募
- 1月12日**：第1陣派遣
- 3月18日**：**13名を派遣** 今後も派遣を継続予定



※令和元年5月

四師会による災害時の医療救護体制に関する協定書締結

愛知県内の派遣状況

災害支援ナース・JMATを覗く (～1月31日)

対象：会員施設代表者リスト (ana) 登録409施設
 行政機関保健師 (愛知県・名古屋市) 2機関 計411施設
 回答数：371施設 (回答率 90.3%)

(延派遣数)

1. 派遣施設

52施設 14.0%

2. 派遣状況

看護師 985名

保健師 140名

3. ボランティア

看護師	
病院	訪看
15	14

派遣元・業務等	看護師		保健師
	病院	訪看	県・市町村
DMAT (災害派遣医療チーム)	691	7	
DPAT (災害派遣精神医療チーム)	63		
日赤救護班	96		
公的病院	46		
国立病院機構	43		
JMAT (日本医師会災害医医療チーム)	11		
県調整本部・搬送	17		
愛知県精神病院協会		7	
DMTRT (災害死亡者家族支援チーム)	4		
保健師チーム			114
DHEAT (災害時健康危機管理チーム)			26
計	971	14	140